

## 日本地理学会2024年秋季学術大会

日本地理学会2024年秋季学術大会は、名古屋市の南山大学において、9月14日（土）、15日（日）を中心に開催された。

本学会の学術大会の報告は、口頭発表、ポスター発表、シンポジウムに区分されている。口頭発表はさらに、「気候」、「地形」、「歴史・文化」、「地理教育」、「経済・産業」、「人口・行動」、「地域計画・地域政策」、「災害」、「政治・社会」、「海外地域研究」、「地理思想・方法論」の11のテーマに分けて行われる。人口に関する報告の多くは、「人口・行動」に含まれる。人口に関する報告は、以下の通りである。

「人口・行動」における発表では、人口移動に関する報告が相次いだ。学際的とされる地理学の性格から、人口移動について人口学よりもより多面的な視点から研究が展開されている。

また、当研究所からは、久井情在主任研究官が、シンポジウム「現代的な地方自治の課題に対する地理的枠組みの探求—ローカル・ガバナンスにおける地域とは何か？—」において、報告を行った。

「原子力発電所の立地地域・建設中止地域における圏域人口比較」・・・藤本典嗣（大阪経済大）

「日本における移動生活への政策的期待と社会での受容

—移動する人々はどのように描かれてきたのか」・・・住吉康大（東京大学）

「多拠点居住者の居住地選好と拠点間の関係—東京・横浜・川崎在住者を対象として」

・・・佐藤英人（高崎経済大学）、中村広幸（芝浦工業大学）

「中山間地に居住する高齢女性の抗移動性に関する考察—長野県飯田市における事例」

・・・木下礼子（無所属）

「大都市圏から地方へのライフスタイル移住者の幸福感に影響する要因

—八丈町と鶴居村におけるインタビュー調査分析」・・・桂川健人（東北大学・院）ほか

「関係人口としてのクラインガルテン利用者—松本市奈川地区を事例に」

・・・東太陽（立教大学・院）

「県と市町村の間の地理的中間スケールに設置された移住相談窓口の役割

—兵庫県の西播磨・但馬・淡路地域を事例に」・・・久井情在（国立社会保障・人口問題研）

（貴志匡博 記）

## 日本人口学会2024年度第1回東日本地域部会

2024年9月20日（金）の午後ならびに21日（土）の午前の2日間にかけて、日本人口学会2024年度第1回東日本地域部会が開催された。札幌駅前に立地する札幌市立大学サテライトキャンパスを会場とし、Zoomによるオンラインでの参加も可能なハイブリッド形式で行われた。報告はすべて自由論題として募集されており、2日間かけて会場で9件、オンラインで2件の計11件の報告がなされた。各報告につき20分の報告時間と15分の質疑応答時間が確保されており、比較的余裕のあるスケジュールの中で、年次大会ではなかなか得難い、地域部会ならではの腰を据えた議論が展開された。

社人研からは、林所長、小池部長、菅室長、貴志主任研究官、久井主任研究官が会場入りし、それぞれ報告を行った。社人研所属の研究者による報告の題名は以下のとおりである（報告順に記載。社人研所属でない共著者については、所属を括弧書きしている）。